

建設産業委員会行政視察報告書

1 視察期間

令和5年10月31日から令和5年11月2日まで 3日間

2 視察都市

- (1) 愛知県豊田市
- (2) 岡山県倉敷市
- (3) 香川県丸亀市

3 参加者

戸塚邦彦委員長、八木義弘副委員長、加藤公人委員、柏木健委員、
鈴木弥栄子委員、小池和広委員、加藤文重委員、寺田幹根委員

同行 川島光弘環境課長

随員 杉田雅英主任

4 視察事項

- (1) カーボンニュートラルの取組について（豊田市）
- (2) 産業振興による市街地の活性化について（倉敷市）
- (3) カーボンニュートラルの取組について（丸亀市）

5 考察

次のとおり

I 豊田市 人口：416,747人・面積：918.32km²（令和5年4月1日現在）

1 カーボンニュートラルの取組について

(1) 概要

豊田市は、愛知県北部の三河地方に位置する都市で、2005年4月に6町村が編入合併し、40万人以上の人口があり、環境モデル都市・SDGs未来都市に指定されている。トヨタ自動車の企業城下町であり、2009年に「環境モデル都市」に選定され、その後2019年にゼロカーボンシティを表明している。環境基本計画で、2022年度▲19%、2025年度▲25%、2030年度▲50%、2050年度▲100%と確実に実行できるロードマップを作成し取り組んでいる。市民運動「とよた・ゼロカーボンアクション」を実施しており、市民等が日々の行動を見直し、節電や3R（リデュース、リユース、リサイクル）などの環境配慮行動を改めて実践していくことで、CO₂の削減につなげている。

(2) 考察

磐田市と財政力の違いが大きくあるが、市民・行政・事業者が一体となって取り組む意識が出来ていると感じた。トヨタ自動車とヤマハ発動機、名古屋グランパスとジュビロ磐田という、共通点を持つが、豊田市では地元の資源として積極的な起用で、カーボンニュートラルをPRしている。

磐田市の環境基本計画に占める再エネのポテンシャルは非常に大きいと感じた。また、担当部署だけでなく、各部署にも横断的意識をもった職員を配置する必要があると感じた。

○カーボンニュートラル実現の最先端を走るトップランナーの印象が深く、職員も誇りを持って楽しんでいる。

○市民向けや事業者向けの補助制度や減税制度が充実している。

○環境意識やノウハウをもった職員が各部署の要になっており、横断的な連携がとられている。

○「とよたゼロカーボンネットワーク」は、自治・行政・商工会議所・JAなど広く協力を呼び掛ける体制が築かれ、市民の意識づけに大きく寄与している。

○市民や事業所へは、各補助金で脱炭素へ向けての行動を確実に支援している。

○「とよたゼロカーボンバンク」で、市独自のJクレジット制度を実施しており、市民・事業者・行政など連携した仕組みになっている。

○水素燃料電池式バスなど積極的に取り入れている。

○SAKURA プロジェクト・Jクレジット・グリーン電力証明書等環境価値の取組があり、環境先進都市としてのプライドを感じた。

II 倉敷市 人口：476,710人・面積：355.63km²（令和5年4月1日現在）

1 産業振興による市街地の活性化について

(1) 概要

倉敷市は、岡山県の南部に位置し、白壁の町並みが残る倉敷美観地区があり、年間300万人以上が訪れる観光都市である。繊維産業が盛んで、学生服やジーンズの生産が盛んである。この地域はかつて綿花の生産と織物産業が栄えた歴史を持ち、児島の職人たちはその伝統的な技術を継承し、ジーンズの製造に生かしている。それら地場産業を活用して観光地化し、まちの賑わいに結び付けている。

(2) 考察

倉敷市は繊維のまちとして発展し、ジーンズのメッカでもある。磐田市もコーデュロイという共通点を持つが、倉敷市には、「倉敷デニムストリート」や、「児島ジーンズストリート」があり、地元産業を活かした、伝統的な技術をまちづくりに繋げており、磐田市の地場産業によるまちづくりの参考になった。

磐田市として、官民の協力体制や、広域の都市間連携、誘致活動戦略の積極的な考え方は、見習うべきであり、多様な視点や専門家の視点を取り入れて事業を進める事が重要であると感じた。

○「まちづくり部まちづくり課」を配置し、産業振興を観光振興と、工業・商業と常に結びつけていることで、ものづくりのまちにつながっている。

○基本計画の改定を重ねても基本テーマや基本方針は変更せず、当初から継承している。不動の根本的なテーマが確立されており評価できる。

○歴史・芸術・文化への誇り、都市基盤の便利で整備されたまちづくりでの持続性・多様な主体性の交流による賑わいと、活気あるまちづくりを基本に置き、それに合わせた各事業が推進されている。

- 産業の歴史や芸術文化を美観地区の核に置き、中心市街地をエリア分けして、市民の住みよさも考慮した中で、賑わい創出を考えている。
- 「倉敷らしさ」を明確にした未来ビジョンの策定を目指し、多様な人材を巻き込んで任意団体を設立し、専門人材の指導や助言を受け事業を進めている。
- 国の制度や補助金を積極的に活用して、中心市街地の活性化を進めてきている。

Ⅲ 丸亀市 人口：108,143人・面積：111.83km²（令和5年4月1日現在）

1 カーボンニュートラルの取組について

(1) 概要

丸亀市は、香川県の中西部に位置し、丸亀城をシンボルとする市で、物資の集散地として発展し金刀比羅宮の参道口として、にぎわいがあり、広域の商圈を持つ商業都市として発展した。「丸亀うちわ」は、年間約1億本を生産し、全国シェアの約9割を占める。令和3年にゼロカーボンシティを宣言し、市・事業者・市民などが温室効果ガスの排出を自分ごととして捉え、連携して地球温暖化対策に取り組むことを目指し、「丸亀市地球温暖化対策実行計画」の策定を予定している。

(2) 考察

丸亀市は、「ゼロカーボンシティ」を宣言した1年後には、「ゼロカーボン推進室を設置し、令和5年には地方創生人材支援制度を活用し、非常勤のグリーン専門家を配属し、環境問題に積極的に取り組んでいるのが伺えた。また、磐田市と同じく、年間日照時間が長く、再生可能エネルギーの太陽光を有効的に活用しており、磐田市と共通した資源の有効活用方法も参考になった。磐田市も、積極的な人材活用と資源の有効活用により、ゼロカーボン実現へ向け積極的な推進が必要であると感じた。

○市民向けのZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）化や、スマートハウス導入促進事業補助金制度などを行っている。

○丸亀市と大手企業との包括連携協定に基づく提案型協働事業を行っている。

○磐田市も、公共施設への太陽光発電設備や、蓄電設備を積極的に導入を進めている。

○ゼロカーボンの必要性について、子ども世代へ分かりやすい教育をしている。

- 「まるがめ世話やき隊」と丸亀市生活環境課ゼロカーボン推進室が主催の、新聞バックは参考になった。
- 温室ガスを数値化し、産業部門等のガス排出割合を提示し、どこに注力すべきか定めている。
- 市民向けにスマートハウスの導入や次世代自動車購入費等補助で確実に事業推進を図っている。
- 市庁舎に補助金を活用し地熱発電の導入や、断熱性を向上させるなどの取組が行われている。